

北里大学・東洋医学総合研究所活動報告

所 長	花 輪 壽 彦(WHO 伝統医学 研究協力センター長)
担当理事	土 本 寛 二
WHO 担当理事	山 田 陽 城
名誉所長	大 塚 恭 男(2009.3.8 御逝去)

訃報

当研究所の第三代所長 大塚恭男名誉所長におかれましては、さる3月8日、午前5時、肺炎による呼吸不全のためご逝去されました。享年79。衷心より哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。当研究所発行の「漢方と鍼」編集部では現在、大塚恭男先生追悼号の準備をしています。

診療・研究・教育・啓発を中心とした事業を活発に展開した。

本年度の最も大きな出来事は、長年の懸案であった社団法人北里研究所と学校法人北里大学の統合である。これにより新たに学校法人北里研究所が発足し、当研究所は大学の附置研究所として、学校法人北里研究所北里大学東洋医学総合研究所という正式名称で新たなスタートを切ることになった。今後は、日常業務における教育や研究に占める割合が、これまで以上に増加していくことが予想される。

公益事業としては、これまで同様に WHO 伝統医学研究協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授(大学院教授)として「東洋医学」専攻の5名の大学院生の教育・研究指導を行った。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府(学府長：山田陽城)の「和漢薬利用科学」の主科目の講義と特別研究指導教授として7名の修士課程の大学院生の教育・研究指導を行った。研究指導は北里大学北里生命科学研究所(所長：山田陽城)の和漢薬物学研究室で行った。清原寛章基礎研究部副部長(准教授)は大学院感染制御科学府の「機能性分子科学」の副科目の講義を行った。清原副部長に加え、永井隆之室長補佐(専任講師)、矢部武士主任(専任講師)も同大学院の基本技術講座を始め研究室所属大学院生の特別研究及び輪講の指導を行った。

学部教育：花輪壽彦所長は引き続き兼任で薬学部(東洋医学概論)の講義を清原寛章副部長(兼任)、早崎知幸副部長(兼任)とともに行った。また、花輪所長は医学部の講義を、また山田陽城部門長は薬学部(生薬学)の講義を担当した。金成俊薬剤部長は、薬学部(漢方病院実習)の漢方実習の指導を行った。伊藤剛漢方診療部副部長は、兼任で医学部(公衆衛生学)の漢方臨床実習について東医研各部部长、室長の協力のもと指導した。また東医研からは外部の10大学医学部や薬学部講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行った。

2) 啓蒙活動

北里大学東洋医学総合研究所では、東洋医学の啓蒙活動の一環として、10月4日(土)午後2時から『第8回東洋医学健康フォーラム』を、東京港区の北里大学薬学部コンベンションホールで開催した。

今年のテーマは「こんな病気に東洋医学 - 漢方・鍼灸の立場から -」。漢方診療部・早崎副部長[演題：漢方でからだをもとから回復させよう!]、薬剤部・緒方科長[演題：煎じ薬とさじ加減]、鍼灸診療部・伊藤部長[演題：鍼灸治療とはこれまで、そしてこれから]の3人が、それぞれ45分の講演を行った。講演会場の外のロビーに漢方薬試飲コーナーを設け、講演の合間に当研究所薬剤部の薬剤師が煎じたばかりの漢方薬を味わっていただいた。参加者は、東京・神奈川・千葉など、比較的近くにお住まいの方が中心であったが、遠く八丈島や静岡から来られたご夫婦など、合計268人の参加があった。来年度以降も健康フォーラムの開催を通じて東洋医学の普及に努める。

そのほか、例年どおり各種団体への講師派遣、新聞雑誌への情報の提供、マスコミの取材に積極的に応じるなど、啓蒙活動を活発に展開した。

3) 第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

今回は、医学生・研修医のための東洋医学セミナーも第30回を迎え、7月28日から8月1日の5日間に渡り開催された。昭和51年の第1回は43名の参加者であったが、その後、ほぼ毎年20~30名以上の参加者であり、今回の受講者は医学生12名、医師3名の計15名と少人数であった。この背

景としては、2002年に医学教育のコア・カリキュラムに漢方薬の内容が組み込まれるようになってから、10年前には3割だった漢方医学教育が、2004年から全ての医学部に実施されるようになったことが関与していると考えられる。ただ、少人数ということで、講師の先生達とより密に接することができ、例年どおり漢方・鍼灸・薬局実習も好評であった。特別講演としては、飯塚病院東洋医学センター所長の三瀧忠道先生から「総合病院における漢方診療の実際」について、入院中は24時間体制で煎じ薬を処方できるという魅力的なお話や、千葉大学大学院医学研究院和漢診療学教授の寺澤捷年先生からは「和漢診療学のめざすもの」という題で、例年よりも更に熱のこもった御講演をいただいた。また、今回からの試みとして、医師の受講生のみ6日目に漢方外来見学を設け、実際に外来風景を見ることでより漢方診療を身近に感じてもらい、好評であった。

4) WHO 伝統医学研究協力センター関係及び国際交流

東医研 WHO 伝統医学研究協力センターの花輪壽彦センター長と小田口浩事務局長は11月7日から9日まで中華人民共和国の北京で開催された WHO Congress on Traditional Medicine に出席した。この会議は各国政府に伝統医学への積極的関わりを求める北京宣言の採択を目的としたものであり、その過程で、各国の実情に応じて伝統医学を国民の健康に役立てる方策について、国内外 WHO 伝統医学研究協力センターのセンター代表者と活発な議論が行われた。

現在 WHO の関与の下、伝統医学用語の国際的な平準化作業が行われているが、東医研のメンバーも漢方医学の専門家としての立場でこの作業に貢献した。また、花輪壽彦センター長をはじめとする東医研メンバーは、日本東洋医学サミット会議（通称 JLOM）が中心となって行う伝統医学啓蒙・普及活動に WHO 伝統医学研究協力センター代表として積極的に参加し、その中心となって活躍した。

その他の国際交流として、医史学研究部が中国・米国と、また基礎研究部がフランス・タイ・サウジアラビアと継続的な国際共同研究を実施した。

・診療部門

診療部門長 村主明彦

1-1. 漢方診療部

所 長	花 輪 壽 彦
副所長・部長	村 主 明 彦
副部長	伊 藤 剛
副部長	及 川 哲 郎
副部長	鈴 木 邦 彦
副部長	早 崎 知 幸
医 長	小 田 口 浩
医 長	五 野 由 佳 理
医 長	齋 藤 絵 美
医 員	伊 東 秀 憲
漢方レジデント	望 月 良 子
漢方レジデント	山 田 和 美
漢方レジデント	石 井 恵 美
漢方レジデント	福 田 知 顕 (4/1~)
漢方レジデント	洪 里 和 良 (4/1~)
非常勤医師	石 野 尚 吾
非常勤医師	柳 澤 紘
非常勤医師	頼 建 守
非常勤医師	高 橋 裕 子
非常勤医師	櫻 井 正 智
非常勤医師	八 代 忍
非常勤医師	蒲 生 裕 司
非常勤医師	星 野 卓 之
非常勤医師	渡 辺 浩 二
非常勤医師	津 田 篤 太 郎 (12/1~)

漢方診療の活動概要

北里東医研の診療部門及び薬剤部門は、より親しみやすい漢方鍼灸治療センターの呼称を冠し、さらなる発展を目指している。

当研究所の漢方外来では、湯液を中心にした診療を行っている。当然のことながら、漢方独特の診察法である四診に基づいた随証治療であり、患者個人個人の病態に合わせたキメの細かい、テーラーメイド医療を実践している。

また全国からの患者様を受け入れるために、6つの診察室を毎日フルに活用している。受診時間に関しても、より幅広いニーズに応えるため「トワイライト外来」を設置している。金曜日のみではあるが夜7時まで診療を行い、従来受診できなかった患者への対応を図っている。

漢方診療専門機関である当診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に全国、時に世界各地から多くの医師や医学部の学

生が集まる。漢方診療部での受け入れにはいくつかのルートがあるのでここに紹介する。

第一は当研究所独自の漢方レジデント制度である。従来は特別研修医師制度と称していたが、学校法人となったことに伴い呼称変更となった。所属する医局の教授や病院長などの推薦のもと、3年の年限で漢方医学の実際を会得することを目標にしている。1期2~3名を定員とする。漢方については初心者であっても、それぞれの専門分野では既に専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半であり、各専門分野に関する最新の知見については、漢方常勤医が逆の立場で教わることも多く、互いに鼓舞されるところ大である。第二として、花輪壽彦所長が教授を兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生が、漢方診療の研修と漢方の基礎、臨床研究に携わっている。従来の個別性を大切に漢方に、EBMの新しい切り口を加えるべく日夜奮闘中である。第三は北里大学医学部学生の漢方外来見学で、同医学部公衆衛生の実習の一環として受け入れを要請されているものである。第四は医学部のクリニックの実習先として、熱意ある学生を受け入れている。またその他少数であるが、個人的な依頼による短期見学（ただし運営会議において了承される必要あり）にも応じている。

月曜日午前は所長の指導外来枠となっており、先輩医師の指導のもと、レジデントあるいは大学院生が輪番で予診をとり、漢方医学的仮診断・処方（鑑別処方を付記）を決定した後、所長の本外来に臨む。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。この他当研究所ではオーベン・ナーベン制を導入しており、オーベン外来への陪席の他、マンツーマンでの古典の読み合わせなどが行われている。

外来以外にも漢方を学ぶ機会が用意されている。新患検討会、医局薬局勉強会、フォローアップ検討会、古典勉強会、抄読会・リサーチカンファレンスなどである。このうち、新患検討会は、会に先立つ1週間の全新患を各担当医がプレゼンテーションする会である。この会で使用するデータベース作成の作業がレジデントに課せられる。新患ひとり一人の舌証・脈証・腹証・方剤等を打ち込んで行くきわめて煩瑣な作業である。しかし、陪席できなかつた漢方医の処方決定のプロセスをつぶさに検証することにも繋がり、目的意識をもって取り組みれば、きわめて有益な漢方修得の機会となる。医局薬局勉強会は、生薬と漢方処方の合同勉強会。物心両面で医局と薬局の距離が近いのも東医研の良さのひとつである。フォローアップ検討会は、外来診療で経験した著効例や難治例など、

注目すべき症例につき検討する会。古典勉強会では、小曽戸医史学研究部長による傷寒論など古典の概説が行われ、古典に一段深く接し理解する、非常に貴重な機会となっている。また花輪所長による傷寒雑病論講義も定期的に行なわれ多くの聴衆を集めている。時には広尾周辺の医家にゆかりの深い寺院をまわる、医史学史跡探訪ツアーも行なわれている。リサーチカンファレンスは、研究面での検討や結果報告を行う機会として、臨床研究部と合同で行っている。

医局には専用の百味筆筒が用意されていて、自身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。レジデントには研修期間中に大方の処方については、必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を体得するよう要求される。個々の漢方薬の特徴をつかむと同時に、患者の立場にたった医療を感得する貴重な体験である。特殊な動物性生薬を含む方剤を北里東医研以外で体験試飲することはほとんど無理であろう。ことほど左様に北里東医研では漢方三昧の日々を送ることが可能で、漢方を志す者にとっては正にパラダイスと言えよう。

レジデント・常勤医も含め、医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総合内科医師を兼任している。必要があれば動物も含めた各種実験・研究も行える。また各種血液・生化学検査、画像診断、光学医療診断を行なうことも可能で、診療の自由度という点では申し分ない環境である。東医研から北里研究所病院には毎週上部消化管検査および下部消化管検査に人員を提供している。さらに、同病院の内科当直業務も分担し、万全な協力体制がとられている。

平成20年4月には学校法人北里学園と社団法人北里研究所の統合がなされ、当研究所は学校法人北里研究所北里大学東洋医学総合研究所へと名称を変更した。この統合を単なる組織上の改変ではなく、新たな誕生と捉え、より一層の質の向上をはかっていく所存である。大学の一部門となることで、教育の比重が従来以上に高まると考えられる。新しい漢方レジデント制度は、日本東洋医学会漢方専門医の養成カリキュラムに完全に準拠しパーフェクトな研修が実施されており、この意味でも時宜にかなったものといえる。このような養成システムをもった漢方機関は他になく、日本漢方教育の嚆矢となることは間違いない。また、漢方研修生制度も充実させ、開業医等で診療所を構えながら漢方専門医を目指す医師にも広く門戸を開いている。診療・教育・研究のバランスを常に保ちながらその発展に寄与することこそ、日本の本格的漢方診療研究機関のパイオニアを自認する北里・東医研の使命である。

症例報告

- 1) 伊藤 剛、及川哲郎、鈴木邦彦、早崎知幸、花輪壽彦：十味敗毒湯加菊花・車前子による漢方治療が奏効した霰粒腫の1症例，漢方の臨床，55(9)：1343-1347(2008)
- 2) 早崎知幸、小田口 浩、五野由佳理、花輪壽彦：三黄瀉心湯が有効であった4症例，漢方の臨床，55(6)：876-880(2008)
- 3) E.Saito, Y.Takahashi and T.Hanawa：Three cases of dysmenorrhea in which hangekobokuto was effective, Journal of Kampo Medicine English Edition 2007：20-22(2008)
- 4) 五野由佳理、早崎知幸、齋藤絵美、花輪壽彦：顔面症状を伴った頭痛に加味逍遙散料が奏効した3症例，漢方の臨床，55(4)：580-585(2008)
- 5) 伊東秀憲、望月良子、齋藤絵美、及川哲郎、村主明彦、花輪壽彦：慢性湿疹に加味逍遙散料が奏効した2症例，漢方の臨床，55(7)：1049-1055(2008)
- 6) 石井恵美、望月良子、鈴木邦彦、花輪壽彦：特異な臨床症状を呈した難治性皮疹に紫根牡蠣湯が著効した一例，漢方の臨床，55(1)：121-126(2008)
- 7) 石井恵美、早崎知幸、山田和美、花輪壽彦：東医研における百合固金湯の臨床報告，漢方の臨床，55(8)：1183-1189(2008)
- 8) 望月良子、卯木希代子、早崎知幸、花輪壽彦：猪苓湯が著効した慢性蕁麻疹の1例，漢方の臨床，55(5)：756-759(2008)
- 9) 望月良子、洪里和良、鈴木邦彦、花輪壽彦：続発性無月経に合併した尋常性ざ瘡に抑肝散料が奏効した1例，漢方の臨床，55(12)：1845-1850(2008)
- 10) 山田和美、大塚静英、及川哲郎、花輪壽彦：右下腹部痛に騰竜湯が著効した一例，漢方の臨床，55(3)：423-426(2008)
- 11) 山田和美、望月良子、花輪壽彦：承気湯類により、ほてり感が著明に改善した2例，漢方の臨床，55(10)：1484-1487(2008)
- 12) 山田和美、及川哲郎、齋藤絵美、鈴木邦彦、花輪壽彦：桂枝去桂加茯苓白朮湯が有効であった4例，日本東洋医学雑誌，IN PRESS
- 2) 伊藤 剛、井上愛子、若杉安希乃、及川哲郎、花輪壽彦：冷え症における自律神経バランスと尿温の変化，第61回日本自律神経学会総会，神奈川，2008/11/6-2008/11/7
- 3) 伊藤 剛、及川哲郎、花輪壽彦：漢方診断における臍痛の臨床的意義とその現代医学的解明，第25回和漢医薬学会学術大会，大阪，2008/8/30-2008/8/31
- 4) 鈴木邦彦、花輪壽彦：五苓散料が有効であった花粉症の3例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 5) 早崎知幸、花輪壽彦：悪性腫瘍患者に対する紫根牡蠣湯の有効性の検討，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 6) 五野由佳理、花輪壽彦：一側半身の違和感・しびれ感を呈した2症例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 7) 大塚静英、鈴木邦彦、及川哲郎、花輪壽彦：附子湯の使用経験，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 8) 齋藤絵美、花輪壽彦：不正性器出血を主訴とした症例に十全大補湯が有効であった2例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 9) 石井恵美、伊藤 剛、星野卓之、津田篤太郎、花輪壽彦：線維筋痛症に香蘇散が著効した1例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 10) 望月良子、早崎知幸、花輪壽彦：大青竜湯がアトピー性皮膚炎に奏効した1例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 11) 山田和美、及川哲郎、花輪壽彦：承気湯類によりほてり感が著明に改善した2例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 12) 洪里和良、鈴木邦彦、花輪壽彦：円形脱毛症に十全大補湯が著効した2症例，第18回漢方治療研究会，千葉，2008/9/21
- 13) 福田知顕、及川哲郎、花輪壽彦：アレルギー性鼻炎に千金内托散料が奏効した1例，第18回漢方治療研究会，千葉，2008/9/21

学会・研究会発表

- 1) 伊藤 剛、井上愛子、若杉安希乃、及川哲郎、花輪壽彦：サーモグラフィと尿温による冷え症のパターンと裏寒の温熱生理学的検討，第59回日本東洋医学会学術総会，宮

城，2008/6/6-2008/6/8

学会特別講演・シンポジウム等

- 1) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割，日本東洋医学会20年度卒後教育セミナー，東京，2008/8/18

- 2) 花輪壽彦：中高年の健康と漢方，日本東洋医学会第65回関東甲信越支部学術総会，山梨，2008/10/26
- 3) 村主明彦：北里東医研における皮膚科疾患の漢方治療 - アトピー性皮膚炎を中心として - ，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 4) 伊藤 剛：冷えと寒熱の病態解明とその意義，第18回日本東洋医学会関東甲信越支部神奈川県部会，神奈川，2008/7/13
- 5) 伊藤 剛：舌から診た漢方医学，第6回東海耳鼻咽喉科漢方研究会，愛知，2008/2/17
- 6) 五野由佳理：慢性頭痛の漢方治療，第61回日本自律神経学会総会，神奈川，2008/11/6-2008/11/7
- 7) 石野尚吾：WHO東アジア伝統医学の標準化と日本の対応，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 12) 花輪壽彦：漢方のまとめ，平成20年度漢方薬・生薬研修会，東京，2008/12/14
- 13) 花輪壽彦：漢方の現状と展望，平成20年度明治薬科大学生涯教育講演会，東京，2008/4/27
- 14) 花輪壽彦：東洋医学の基礎 - 陰陽虚実・気血水・証について - ，北里大学東洋医学総合研究所医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/7/28
- 15) 花輪壽彦：東洋医学の特質と展望，北里大学東洋医学総合研究所医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/8/1
- 16) 花輪壽彦：気剤の使い方，2008年温知会講義，東京，2008/9/28
- 17) 花輪壽彦：「漢方」って何？，山梨県立大学看護学科東洋医学講義，山梨，2008/4/24
- 18) 花輪壽彦：漢方診療のすすめ～上達のコツ～，静岡県西部内科医会総会，静岡，2008/6/14

講演・講義等

- 1) 花輪壽彦：漢方概論，北里大学医学部第3学年薬理学総論講義，神奈川，2008/5/12
- 2) 花輪壽彦：腎・尿路の東洋医学，北里大学医学部第4学年後期特別講義，神奈川，2008/11/28
- 3) 花輪壽彦：東洋医学入門，北里大学薬学部東洋医学概論講義，東京，2008/9/17
- 4) 花輪壽彦：消化器疾患と漢方，後期レジデントのための漢方連続講座 in Chiba，千葉，2008/9/6
- 5) 花輪壽彦：ナイトミーティング：花輪先生を囲んで「東洋の知恵・西洋の知恵」，後期レジデントのための漢方連続講座 in Chiba，千葉，2008/9/6
- 6) 花輪壽彦：漢方は女性の健康をたすける，第11回市民公開漢方セミナー，東京，2008/10/16
- 7) 花輪壽彦：漢方各論 漢方診療の諸注意 - ，平成19年度漢方薬・生薬研修会，東京，2008/2/17
- 8) 花輪壽彦：漢方のまとめ，平成19年度漢方薬・生薬研修会，東京，2008/2/17
- 9) 花輪壽彦：漢方概論，平成20年度漢方薬・生薬研修会，東京，2008/4/20
- 10) 花輪壽彦：漢方各論 - 免疫・アレルギー - ，平成20年度漢方薬・生薬研修会，東京，2008/4/20
- 11) 花輪壽彦：漢方各論 - 漢方診療の諸注意 - ，平成20年度漢方薬・生薬研修会，東京，2008/12/14
- 19) 花輪壽彦：東洋医学の臨床，第9回浜松医科大学東洋医学教育研究会，静岡，2008/10/2
- 20) 花輪壽彦：中高年の健康と漢方，平成20年度市民大学（北里大学コース），東京，2008/9/18
- 21) 花輪壽彦：漢方医薬学の現状と北里大学，平成20年度北里大学PPA定期総会，東京，2008/6/8
- 22) 花輪壽彦：漢方治療と薬用人参，明治製菓特別講演，東京，2008/2/14
- 23) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割、日本東洋医学会平成20年度医学部・医科大学大学生のための卒前教育、東京、2008/8/18
- 24) 村主明彦：急性熱性疾患の漢方医学的捉え方，第24回ICP研究会，東京，2008/3/7
- 25) 村主明彦：漢方診療の実際，平成20年度明治薬科大学生涯教育講演会，東京，2008/6/22
- 26) 村主明彦：漢方医学の実際 - 臨床の現場における漢方治療 - ，第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/7/28-2008/8/1
- 27) 村主明彦：東洋医学の歴史，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/10/14
- 28) 村主明彦：漢方薬の特徴について，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/10/14
- 29) 村主明彦：漢方診療の実際，明治薬科大学

- 伝統医学概論講義，東京，2008/10/21
- 30) 村主明彦：漢方医学と西洋医学の比較 それぞれの長所および短所，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/11/11-2008/11/11
- 31) 村主明彦：漢方診療の実際，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/11/18
- 32) 村主明彦：漢方診療の実際，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/12/9
- 33) 村主明彦：頻用処方解説，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/12/16
- 34) 伊藤 剛：二つの脳、二つの医学 - 東洋医学と西洋医学 - ，産業懇談会「第3グループ」4月例会，社団法人経済同友会，東京，2008/4/17
- 35) 伊藤 剛：（模擬講義）二つの脳、二つの医学 - 西洋医学と東洋医学 - ，第1回神奈川県4大学漢方医学FDフォーラム合同研修会，神奈川，2008/12/7
- 36) 伊藤 剛：漢方診療の基礎理論，平成20年度明治薬科大学生涯教育講演会，東京，2008/5/25
- 37) 伊藤 剛：漢方医学の実際 - 証の解明，第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，28/7/29
- 38) 伊藤 剛：東洋医学を看護に生かす，山梨県立大学看護学科東洋医学講義，山梨，2008/4/28
- 39) 伊藤 剛：診断学としての東洋医学，第9回浜松医科大学東洋医学教育研究会，静岡，2008/10/9
- 40) 伊藤 剛：診断学としての東洋医学，浜名医師会学術講演会，静岡，2008/10/11
- 41) 鈴木邦彦：漢方医学の基礎 - 四診（脈診） - ，第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/7/28-2008/8/1
- 42) 早崎知幸：漢方医学の基礎知識，北里大学薬学部東洋医学概論講義，東京，2008/9/24
- 43) 早崎知幸：漢方診療の進め方，北里大学薬学部東洋医学概論講義，東京，2008/10/1
- 44) 早崎知幸：漢方エキス製剤のやさしい使い方，北里大学薬学部東洋医学概論講義，東京，2008/10/8
- 45) 早崎知幸：各科疾患の漢方治療1，北里大学薬学部東洋医学概論講義，東京，2008/10/22
- 46) 早崎知幸：各科疾患の漢方治療2，北里大学薬学部東洋医学概論講義，東京，2008/10/29
- 47) 早崎知幸：メンタルヘルス分野の漢方治療，2008東京都女性薬剤師会 夏季研修会漢方講座，東京，2008/7/13
- 48) 早崎知幸：漢方でからだをもとから回復させよう，第8回東洋医学健康フォーラム，東京，2008/10/4
- 49) 早崎知幸：漢方医学の基礎 - 四診（望 聞 問 診） - ，第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/7/28-2008/8/1
- 50) 早崎知幸：漢方医学の実際 - 癌治療を中心に - ，第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/7/28
- 51) 早崎知幸：漢方医学の話，シルバー大学講演会，東京，2008/11/7
- 52) 早崎知幸：漢方と緩和ケア，第3回がん診療連携拠点病院講演会，栃木，2008/11/27
- 53) 早崎知幸：漢方の理解8『外科領域における漢方医学』，第8回佐賀大学東洋医学研究会，佐賀，2008/6/17
- 54) 早崎知幸：すこやかな心と身体を育むために，平成20年度宮前市民館 家庭・地域教育学級，神奈川，2008/10/20
- 55) 五野由佳理：東洋医学について，野村マネージメントスクール，東京，2008/2/8
- 56) 齋藤絵美：女性に対する漢方の使い方，JOYFUL KAMPO SEMINAR in minato 2008，東京，2008/7/24
- 57) 齋藤絵美：不妊症と漢方治療，漢方教室，東京，2008/3/15
- 58) 齋藤絵美：婦人科疾患と漢方，北研病院・東医研合同東洋医学勉強会，東京，2008/2/15
- 59) 石野尚吾：WHO東アジア伝統医学の標準化と日本の対応，平成19年度厚生労働科学研究統計情報総合研究講演会，東京，2008/2/1

その他

- 1) 花輪壽彦：漢方なんでも道場，日本経済新聞 毎週火曜日夕刊、連載，2008/1/8-2008/12/16
- 2) 伊藤 剛：湯たんぼ人気復活、かぞく，日本農業新聞，
- 3) 伊藤 剛：漢方で治すうつ，IPPO（いっぽ）10号（インプレッサマガジン2月号臨時増刊），41-43，株式会社ニューズ出版
- 4) 伊藤 剛：多くの不調を招く低体温を解消，日経ヘルス2月号，，58-69，日経BP社
- 5) 伊藤 剛：冷え症，週刊朝日 新名医の最新治療Vol.21，104-105，朝日新聞社

- 6) 伊藤 剛：夏の掘り出し物（第2部），通販生活2008年夏号42-45，カタログハウス
- 7) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです（カルテNo.3，風邪をひきやすいのですが・・・），SEVENTEEN5月号171，集英社
- 8) 伊藤 剛：通販生活の夏腹巻き，火曜だよ、通販生活（ウェブサイト）カタログハウス
- 9) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです（カルテNo.4，突然おならが出てしまったのですが・・・），SEVENTEEN6月号151，集英社
- 10) 伊藤 剛：通販生活の脚ウォーマー，火曜だよ、通販生活（ウェブサイト）カタログハウス
- 11) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです（カルテNo.7，血行が悪いのが悩み、血行をよくしたい！），SEVENTEEN8月号187，集英社
- 12) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです（カルテNo.8，おなかが異常に鳴ります！），SEVENTEEN10月号205，集英社
- 13) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです（カルテNo.12，耳の下がよく腫れるのですが・・・），SEVENTEEN12月号207，集英社
- 14) 伊藤 剛：家庭で簡単！節約術，生活ほっとモーニング，NHK
- 15) 伊藤 剛：冷え症特集（ほんとは怖い寒がり），「最終警告！ほんとは怖い家庭の医学」冷え症スペシャル，テレビ朝日
- 16) 五野由佳理：東洋医学 漢方・鍼灸について，インタープレス健生ニュース，第2339号インタープレス
- 17) 五野由佳理：アンチエイジングと漢方，月刊誌「まいんど」，日本フルハップ財団
- 18) 五野由佳理：冷房病，イブニングファイブ，
- 19) 齋藤絵美：健康相談からだと心、東洋医学，すこやかファミリー，2月号，31，研友企画出版
- 20) 齋藤絵美：卵巣の疾患（良性腫瘍），日本女性心身医学会ホームページ
- 21) 伊東秀憲：病気になる条件 - その予防と対策 - 体質 - ，日刊スポーツ新聞，2008年6月25日～29日朝刊，日刊スポーツ

研究報告書

- 1) 合田幸広、佐竹元吉、寺澤捷年、中田敬吾、花輪壽彦、三上正利：新一般用漢方処方の手引き案(改訂版)，(研究報告書)一般用漢方処方の見直しを図るための調査研究班

-2. 鍼灸診療部

【医師】

部長（兼務）	伊 藤 剛
医員（兼務）	伊 東 秀 憲
非常勤	石 野 尚 吾
非常勤	柳 澤 紘

【鍼灸師】

科長補佐	小 山 基
係長	石 原 武
鍼灸師レジデント	矢 吹 杏 子
鍼灸師レジデント	黒 岩 奈々子
非常勤	掛 川 一 五
非常勤（兼務）	天 野 陽 介
非常勤	益 山 亜紀子
非常勤助手	井 田 剛 人

診療概要

東洋医学総合研究所の鍼灸診療部の外来診療には、医師4名（常勤2名、非常勤2名）ならびに鍼灸師5名（常勤2名、非常勤3名）の9名が交代あたり、鍼灸師レジデント2名（鍼灸師）、助手1名（非常勤鍼灸師）、研修生14名（医師8名、鍼灸師6名）ならびに看護師1名がサポートしている。診療は祭日を除く、月曜日から金曜日までの午前・午後と土曜日の午前を予約制で行っている。

初診患者の予診は医師と鍼灸師が行っているが、診療担当鍼灸師が行った予診結果については必ず常勤医師2名が現代医学的チェックを行い、新患については毎週1回（金曜日）診療スタッフと研修生とで新患検討会を行い、病名ならびに現代医学的判断を行い鍼灸治療方針の確認を行っている。

平成21年の初診患者数は713人であり、外来患者受診数は12911人であった。

教育概要

平成20年4月に北里学園と統合され、平成19年度は教育と研究をこれまで以上に充実させるため本邦初の鍼灸師レジデント制度を設け、2月に行った試験選抜にて2名のレジデントを採用した。鍼灸師レジデントは原則2年間の研修で、鍼灸の診療技術だけでなく、古典医学と現代医学の知識、研究に必要な技術を習得し、世界的な視野を持った鍼灸師を育成する事に目的がある。それ以外にも鍼灸師（鍼灸研修生）、医師（漢方レジデント、研修生など）、大学生（医学部学生、看護学部学生など）を対象に伝統的な鍼灸に加え、現代的な鍼灸学を踏まえた教育を実施した。鍼灸師研修生ならびに鍼灸師レジデントは研修日の診療研修以外

に、毎週金曜日に行う新患検討会や、鍼灸古典抄読会、現代鍼灸論文（英文）抄読会などの勉強会に参加する事を義務付けた。平成20年は鍼灸古典として『鍼灸拔萃大成』（岡本一抱）と『難経集註』を用いた。その他、外国ではバーレーンから日本の鍼灸を研修に来た医師1名に対しても鍼灸研修を行った。

また東医研における教育においては、漢方（湯液）と同時に鍼灸に対する研修も強化した。漢方医師レジデントには鍼灸輪読会と経穴・経絡実習、ならびに診療体験実習を隔週で週1回行った。なお、これらの研修システム以外で、数名の医師に対し個人的な研修も行われた。

学生に対する教育では、医学部学生や看護学部学生に対する鍼灸講義ならびに鍼灸実習が行われた。伊藤部長は北里大学医学部、浜松医科大学医学部、静岡県立大学看護学部、山梨県立大学看護学部で鍼灸講義や鍼灸実習を行った。また毎年東医研主催で行っている「医学生のための夏期セミナー」では、全国から医学生や、すでに医師として活躍しており東洋医学の研修を希望する医師達が集い、1週間、漢方や鍼灸、漢方薬、医史学、臨床研究、基礎研究などの講義や実習では脈診の採り方、鍼の刺入方法などを体験学習し、好評を博した。

研究概要

WHOでは伝統医学を守る上で、Evidence-based health care practiceを推進している。当鍼灸部門でも世界的な視野を持ち、臨床研究と基礎研究によりEBMを作り上げる必要がある。現在検討中の臨床研究では、冷え症に対する鍼灸治療効果、脈診など鍼灸診断の現代医学的評価、経絡治療の意義など、基礎研究では、鍼の作用メカニズム、各経穴に対する鍼の生理的作用、経絡現象の解明などである。このうち11月に行われた第61回日本自律神経学会総会の東洋医学からみた自律神経機能というシンポジウムにて、鍼灸と自律神経機能の密接な関係を主に消化管機能の観点より発表する機会を得た。その他、1987年から2006年の19年間、診療カードを用いコンピュータに記録してきた診療データをまとめた。

学会・研究会発表

- 1) 伊藤 剛, 伊東秀憲, 石原 武, 小山 基: 冷え症に対する築賓指圧による温熱生理学的効果, 第57回全日本鍼灸学会学術大会, 京都, 2008/5/30-2008/6/1
- 2) 伊藤 剛, 及川哲郎, 花輪壽彦: 漢方診断における臍痛の臨床的意義とその現代医学的

解明, 第25回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008/8/30-2008/8/31

- 3) 黒岩奈々子: パーキンソン病に対する鍼灸治療の1例 - 疼痛、便秘、抑うつが改善した1例 - , 第57回全日本鍼灸学会学術大会, 京都, 2008/5/31

学会特別講演・シンポジウム等

- 1) 伊藤 剛, 及川哲郎, 花輪壽彦: 鍼灸医療と自律神経 - 消化管機能と経穴・経路 -, 第61回日本自律神経学会総会, 神奈川, 2008/11/6-2008/11/7

講演・講義等

- 1) 伊藤 剛: 鍼灸総論, 北里大学医学部公衆衛生臨床実習講義, 東京, 2008/4/18
- 2) 伊藤 剛: 鍼灸診療とは - これまで、そしてこれから -, 第8回東洋医学健康フォーラム, 東京, 2008/10/4
- 3) 伊藤 剛: 鍼灸医学の実際, 第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー, 東京, 2008/7/29
- 4) 伊藤 剛: 鍼灸診療の基礎 - 現代医学より見た鍼灸 -, 北研病院・東医研合同東洋医学勉強会, 東京, 2008/1/18
- 5) 伊藤 剛: 鍼灸医学概説, 山梨県立大学看護学科東洋医学講義, 山梨, 2008/4/28
- 6) 伊藤 剛: 東洋医学と西洋医学, 静岡県立大学看護学部医療論講義, 静岡, 2008/6/2
- 7) 伊藤 剛: 診断学としての東洋医学, 第9回浜松医科大学東洋医学教育研究会, 静岡, 2008/10/9
- 8) 伊藤 剛: 診断学としての東洋医学, 浜名医師会学術講演会, 静岡, 2008/10/11

その他

- 1) 伊藤 剛: 冬でもぬくぬく! 体ポカポカ術, NHK生活ほっとモーニング1・2月号, 24-31, 日本放送出版協会
- 2) 伊藤 剛: 多くの不調を招く低体温を解消, 日経BP社ムック58-69, 日経BP社
- 3) 伊藤 剛: 指圧で改善 梅雨の不調、血行よくし冷え対策, 日本経済新聞,
- 4) 伊藤 剛: カリスマ医師の神ワザ、腰痛(西洋医学で相手にされない患者を治す当代一の鍼灸の使い手), 日刊現代,
- 5) 伊藤 剛: 教えて、達人! ガンコな便秘の治し方, 日経メディカルCadetto, Autumn, No3日経BP社
- 6) 伊藤 剛: 鍼灸, カリスマ医師50人の神ワザ

小学館

- 7) 伊藤 剛:家庭で簡単!節約術,生活ほっとモーニング, NHK

・薬剤部門

薬剤部門長 金 成俊

薬剤部

部長

金 成俊

科長

緒方 千秋

科長補佐

坂田 幸治

主任

中村 恵子

薬剤師

高際麻奈未

薬剤師

室生真千子

薬剤師

須藤 岳大

薬剤師

山下 知子

薬剤師

中村ひろみ

薬剤師

星 真奈美(4/1 入局)

薬剤師(非常勤)

小林 文子(3/31 まで職員 4/1~)

薬剤師(非常勤)

佐々木花奈(11/6 退職)

薬剤師(レジデント)

堀 成寿(4/1 入局)

研究概要

薬剤部では漢方の臨床薬局として、薬剤業務に関する諸問題改善を前提に各自が研究テーマを定め、テーマ毎に研究活動を行いその成果を学会等に報告している。また今年度は仙台で開催された第59回日本東洋医学会学術総会において、日頃の研究成果が評価され、金成俊が「日本東洋医学会奨励賞」を授与した。今年度学会報告を行った研究を示す。

- 1)煎剤の無機元素量の測定及び医療用漢方製剤との比較

医療用漢方製剤の無機元素量はインタビューホームなどから得ることが可能であるが、煎剤の無機元素量に関する情報はないため、煎剤の無機元素量を調査した。その結果を医療用漢方製剤と比較を行った。

- 2)患者の男女比および年代分布から得られた漢方処方の特徴

北里東医研で用いられている常用処方における男女比及び年代分布の比較を行い、各常用処方の特徴を理解するための情報とした。本研究結果は日本東洋医学雑誌に投稿し、原著論文として採用された。

- 3)麻子仁の剤形の相違による小腸輸送能に及ぼす影響

漢方薬の構成生薬は通常刻み生薬が用いられるが、小型の果実や種子生薬は全形を用いることが多い。全形を用いることにより生薬成分の抽出が不十分と考えられる麻子仁について、全形生薬と砕き生薬の小腸輸送能について比較した。

- 4)食物アレルギーに関する生薬及び漢方薬の調査
食物アレルギー人口は増加しており、天然物を使用している漢方薬においても食物アレルギーの可能性があるため、受診患者を対象として食物アレルギーの有無について聞き取り調査を行い、食物アレルギーの可能性のある生薬について報告した。

- 5)漢方薬の構成生薬と西洋薬との相互作用について

初診患者が服用している西洋薬の実態を調査し、漢方薬の構成生薬との相互作用について調査したところ、最も使用頻度の高かった西洋薬は抗不安薬であった。漢方薬と抗不安薬の相互作用における意義や問題点などに関して報告した。

- 6)漢方薬レトルトパックの保存時における細菌数の経時的変化

漢方薬の煎じる手間を省いた漢方薬レトルトパックが一部で用いられているが、漢方薬レトルトパックの長期保存時における細菌数の調査を行い、漢方薬レトルトパックの安全性について報告した。

薬剤業務の活動内容

最近の傾向として患者から漢方薬の薬効説明を望む声が聞かれた。漢方薬は幅広い疾患に用いられるため、医師及び薬剤師が口答による説明を行っているが、漢方薬の薬効に関して印刷物による情報提供の必要性が、オーダリング登録されている生薬約200種、漢方処方約500首について、北里東医研オリジナルの患者情報提供の作成を行った。まず薬剤部内で原案を作成し、所長を含む常勤医局員全員が査読を行い、薬の薬効に関して薬剤師と医師の共通した患者情報提供としてのデータが完成した。患者情報提供の実施は来年度より開始予定である。

教育啓蒙活動

薬学大学における教育活動として、例年通り帝京大学、明治薬科大学に講師を派遣し、病院漢方薬局の業務に関して講義を行った。また薬学生や医学生に対しての薬局実習も実施した。韓国を中心とした海外からの教授や学生に対して、日本漢方の現状に関する講義も行った。特に今年度は薬剤部に在職した職員を対象に「薬剤部研修会」を開催した。熊本や神戸、三重、岐阜、新潟など遠

方からの参加者も多く見られた。講演会では創立時から現在に至るまでの薬剤部の経緯を5人のパネリストが発表し、創立時の大変さや懐かしい思い出の内容が紹介され、創立当時を知らない職員に取っては貴重な報告であった。一方、創立当時の職員は現在薬剤部の規模の大きさや発展に驚き、感慨深げであった。薬剤部の歴史を知る上で大変意義のある研修会であった。

<教育(講義・実習)・見学研修>

2008/1/15: 韓国慶熙大学医学部ファン・ヨンホ
見学研修

2008/1/29: 韓国東義大学韓医学部ジ・キュヨン
教授他見学

2008/2/29: 大韓韓医学会キム・ジャンヒョン会
長他4名表敬訪問

2008/6/2-27: 病院・薬局実務実習帝京大学 1
名薬局実習

2008/6/27: 韓国韓医学研究院シン・ヒョンギユ
見学研修

2008/7/28-8/8: 夏期薬学生病院実習, 明治薬科
大学2名

2008/7/30: 医学生、研修医のための夏期セミナ
ー薬局実習

2008/10/28, 11/4, 25, 12/2: 明治薬科大学伝統医
学概論(分担講義: 金成俊)

総説

- 1) 緒方千秋: 漢方薬の服薬指導, ファルマシア, 44(2): (2008)

学会報告

- 1) 金成俊、高際麻奈未、坂田幸治、緒方千秋: 漢方薬レトルトパックの保存時における細菌数の経時的変化, 第41回日本薬剤師会学術大会, 宮崎, 2008/10/12-2008/10/13
- 2) 緒方千秋、坂田幸治、金成俊: 「食物アレルギーに関連する生薬及び漢方薬の調査」, 第18回日本医療薬学会年会, 北海道, 2008/9/20-2008/9/21
- 3) 坂田幸治、高際麻奈未、緒方千秋、金成俊、石野尚吾、花輪壽彦: 煎剤の無機元素量の測定及び医療用漢方製剤との比較検討, 第59回日本東洋医学会学術総会, 宮城, 2008/6/6-2008/6/8
- 4) 高際麻奈未、金成俊、石野尚吾、花輪壽彦: 患者の男女比および年代分布から得られた漢方処方の特徴, 第59回日本東洋医学会学術総会, 宮城, 2008/6/6-2008/6/8

- 5) 室生真千子、緒方千秋、金成俊: 「漢方薬の構成生薬と西洋薬との相互作用について」, 第18回日本医療薬学会年会, 北海道, 2008/9/20-2008/9/21

講演・講義等

- 1) 金成俊: 漢方製剤の特徴と服薬指導, ファーマシー漢方セミナー2008in東京, 東京, 2008/3/20
- 2) 金成俊: 漢方薬学総論 (本草学、漢方薬に用いる生薬), 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/4/23
- 3) 金成俊: 漢方薬学総論 (漢方製剤の種類と剤形、原料生薬の流通、漢方薬の品質管理), 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/4/23
- 4) 金成俊: 現代医療における漢方処方(各疾患における処方の運用), 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/4/30
- 5) 金成俊: 漢方薬の作用メカニズム, 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/4/30
- 6) 金成俊: 医療用漢方製剤の適用 (薬効による処方の運用、基本漢方処方による処方の運用), 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/5/14
- 7) 金成俊: 煎剤実習, 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/5/14
- 8) 金成俊: 医療用漢方製剤の適用 (主要処方の解説), 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/5/28
- 9) 金成俊: まとめ, 帝京大学薬学部東洋医学概論, 東京, 2008/5/28
- 10) 金成俊: 生薬・調剤の実際, 第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー, 東京, 2008/7/28
- 11) 金成俊: 処方概論及び実習, 日本東洋医学会平成20年度医学部・医科大学大学生のための卒前教育, 東京, 2008/8/20
- 12) 金成俊: 「処方概論及び実習」, 日本東洋医学会20年度卒後教育セミナー, 東京, 2008/8/20
- 13) 金成俊: 「発熱、頭痛、肩こり 生薬解説 半夏 黄連 黄芩」, 日本漢方医学研究所平成20年度臨床講座, 東京, 2008/9/14
- 14) 金成俊: 本草学、生薬の品質, 明治薬科大学伝統医学概論講義, 東京, 2008/10/28
- 15) 金成俊: 煎薬体験, 明治薬科大学伝統医学概論講義, 東京, 2008/11/4
- 16) 金成俊: 漢方における薬剤師の役割, 平

成20年度明治薬科大学生涯教育講演会，東京，2008/11/23

- 17) 金 成俊：漢方薬の調剤，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/11/25
- 18) 金 成俊：漢方薬の服薬指導，明治薬科大学伝統医学概論講義，東京，2008/12/2
- 19) 金 成俊：食欲不振，悪心，嘔吐，腹痛，下痢，便秘 - 生薬解説 - 半夏 黄連 黄芩 大黄，日本漢方医学研究所平成20年度臨床講座，東京，2008/12/21
- 20) 緒方千秋：漢方薬の服薬指導に必要な知識，平成20年埼玉県ツムラ漢方調剤セミナー，埼玉，2008/2/3
- 21) 緒方千秋：東洋医学総論、漢方医学の理論および診断、帝京大学薬学部東洋医学概論、東京、2008/4/16
- 22) 緒方千秋：漢方医学の歴史、世界の伝統医学、帝京大学薬学部東洋医学概論、東京、2008/4/16
- 23) 緒方千秋：医療漢方薬学（漢方薬の調剤、製剤）、帝京大学薬学部東洋医学概論、東京、2008/5/21
- 24) 緒方千秋：医療漢方薬学（漢方薬の服薬指導および使用上の注意）、帝京大学薬学部東洋医学概論、東京、2008/5/21
- 25) 緒方千秋：「漢方薬の上手な飲み方」，第10回薬用植物シンポジウム，神奈川，2008/5/24
- 26) 緒方千秋：「薬剤師として知っておきたい漢方服薬指導の実際Part2」，東京都女性薬剤師会 夏季研修会漢方講座2008，東京，2008/7/13
- 27) 緒方千秋：「煎じ薬」と「さじ加減」，第8回東洋医学健康フォーラム，東京，2008/10/4
- 28) 緒方千秋：医療用漢方製剤の服薬指導における留意点，東京漢方調剤フォーラム2008，東京，2008/11/30
- 29) 坂田幸治：「薬剤師として知っておきたい生薬」，東京都女性薬剤師会 夏季研修会漢方講座2008，東京，2008/7/13

その他

- 1) 金 成俊：台湾台北市の神農宮を訪ねて，漢方の臨床，55(4)，672-674，東亜医学協会
- 2) 金 成俊：韓国韓医学通信(第25報)，漢方の臨床，55(1)，201-202，東亜医学協会
- 3) 金 成俊：韓国韓医学通信(第26報)，漢方の臨床，55(3)，520-521，東亜医学協会
- 4) 金 成俊：韓国韓医学通信(第27報)，漢方の

- 臨床，55(5)，813-814，東亜医学協会
- 5) 金 成俊：韓国韓医学通信(第28報)，漢方の臨床，55(6)，974-975，東亜医学協会
- 6) 金 成俊：韓国韓医学通信(第29報)，漢方の臨床，55(9)，1421-1422，東亜医学協会

受賞

- 1) 金 成俊：第59回日本東洋医学会奨励賞受賞、2008/6/7

III. 研究部門

研究部門長 山 田 陽 城(兼任)

III-1. 基礎研究部

部長(兼任) 山 田 陽 城(北里大学北里生命科学研究所所長,同和漢薬物学研究室教授・同大学院感染制御科学府学府長,同教授)

室長(兼任) 清 原 寛 章(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室准教授・同大学院感染制御科学府准教授)

室長補佐(兼任) 永 井 隆 之(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)

室長補佐(兼任) 矢 部 武 士(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)

研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行った。特に漢方処方薬の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため臨床研究部との共同研究も進めた。研究テーマは「漢方処方の薬効の解明」,「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」,「和漢薬の新しい作用とその作用成分の解明」の3つに大別される。

本年度の研究テーマのうち、「漢方処方の薬効の解明」では、1)麻黄湯のインフルエンザウイルス感染に対する作用の解析、2)香蘇散の抗うつ作用の機序のプロテオーム解析、3)加味温胆湯の抗うつ作用の機序の解析、4)補中益気湯の腸管上皮細胞に対する作用と作用成分の解析について検討した。「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では、和漢薬由来する腸管免疫調節活性を有する各種の多

糖の活性発現糖鎖の解明について検討した。「和漢薬の新しい作用とその作用成分の解明」では、1) 和漢薬などの植物素材からのマラリア、トリパノソーマ、インフルエンザウイルスなどに対する抗感染物質の探索研究、2) 和漢薬の中枢神経系に対する作用の解析のための基盤研究と中枢神経疾患の新しい治療薬の探索について検討を行った。

また、日タイ拠点大学方式学術交流事業の一環として、タイのスリナカリンウィロット大学薬学部の Narisa Kamkaen 准教授を留学研究員として受け入れ、日タイ産生薬からの抗感染症薬の探索に関する共同研究を展開した。基礎研究部ではこの他国内やタイ、サウジアラビア、ノルウェーなどの国外研究機関および大学などとの種々の共同研究を継続して進めている。

著書

なし

原著

- 1) T. Matsumoto, M. Noguchi, O. Hayashi, K. Makino and H. Yamada : Hochuekkito, a Kampo (traditional Japanese herbal) medicine, enhances mucosal IgA antibody response in mice immunized with antigen - entrapped biodegradable microparticles, *Evid. Based Complement. Alternat. Med.*, (doi: 10.1093/ecam/nem166) (2007)
- 2) T. Matsumoto, T. Takahashi and H. Yamada : A novel approach for screening of new anti-*Helicobacter pylori* substances, *Biol. Pharm. Bull.*, 31(1), 143-145 (2008)
- 3) T. Matsumoto, M. Moriya, H. Kiyohara, Y. Tabuchi and H. Yamada : Hochuekkito, a Kampo (traditional Japanese herbal) medicine, and its polysaccharide portion stimulate G-CSF secretion from intestinal epithelial cells, *Evid. Based Complement. Alternat. Med.*, (doi: 10.1093/ecam/nen007) (2008)
- 4) T. Matsumoto, M. Moriya, M. H. Sakurai, H. Kiyohara, Y. Tabuchi and H. Yamada : Stimulatory effect of a pectic polysaccharide from a medicinal herb, the roots of *Bupleurum falcatum* L., on G-CSF secretion from intestinal epithelial cells, *Int. Immunopharmacol.*, 8(4), 581-588 (2008), *Corrigendum, ibid*, 8(12), 1713 (2008)
- 5) K. Miki, T. Nagai, T. Nakamura, M. Tsuji, K. Koyama, K. Kinoshita, K. Furuhashi, H. Yamada and K. Takahashi : Synthesis and evaluation of influenza virus sialidase inhibitory activity of hinokiflavone-sialic acid conjugates, *Heterocycles*, 75(4), 879-885 (2008)
- 6) P. Khaomek, C. Ichino, A. Ishiyama, H. Sekguchi, M. Namatame, N. Ruangrunsi, E. Saifah, H. Kiyohara, K. Ootoguro, S. Omura and H. Yamada : In vitro antimalarial activity of prenylated flavonoids from *Erythrina fusca*, *J. Nat. Med.*, 62(2), 217-220 (2008)
- 7) T. Matsumoto, K. H. Nishiyama and H. Yamada : A pectic polysaccharide isolated from the roots of *Bupleurum falcatum* L. stimulates the tyrosine phosphorylation of lipid rafts of murine B cells, *Biol. Pharm. Bull.*, 31(5), 931-934 (2008)
- 8) N. Ito, T. Yabe, Y. Gamo, T. Nagai, T. Oikawa, H. Yamada and T. Hanawa : Rosmarinic acid from *Perillae Herba* produces an antidepressant-like effect in mice through cell proliferation in the hippocampus, *Biol. Pharm. Bull.*, 31(7), 1376-1380 (2008)
- 9) K. Ootoguro, A. Ishiyama, M. Namatame, A. Nishihara, T. Furusawa, R. Masuma, K. Shiomi, Y. Takahashi, H. Yamada and S. Omura : Selective and potent in vitro antitrypanosomal activities of ten microbial metabolites, *J. Antibiot.*, 61(6), 372-378 (2008)
- 10) T. Nagai, T. Narikawa, N. Ito, T. Takeda, T. Hanawa and H. Yamada : Antidepressant-like effect of a Kampo (Japanese herbal) medicine, kososan, against interferon- α -induced depressive-like model mice, *J. Trad. Med.*, 25(3), 74-80 (2008)
- 11) N. Ito, T. Nagai, T. Oikawa, H. Yamada and T. Hanawa : Antidepressant-like effect of l-perillaldehyde in stress-induced depression-like model mice through regulation of the olfactory nervous system, *Evid. Based Complement. Alternat. Med.*, (doi: 10.1093/ecam/nen045) (2008)
- 12) T. Sanagi, T. Yabe and H. Yamada : Gene transfer of PEDF attenuates ischemic brain damage in the rat middle cerebral artery occlusion model, *J. Neurochem.*, 106(4), 1841-1854 (2008)
- 13) E. Abdel-Sattar, F. M. Harraz, S. M. A.

Al-ansari, S. El-Mekkawy, C. Ichino, H. Kiyohara, A. Ishiyama, K. Otoguro, S. Omura and H. Yamada : Acylated pregnane glycosides from *Caralluma tuberculata* and their antiparasitic activity, *Phytochemistry*, 69(11), 2180-2186 (2008)

- 14) A. Ishiyama, K. Otoguro, M. Namatame, A. Nishihara, T. Furusawa, R. Masuma, K. Shiomi, Y. Takahashi, M. Ichimura, H. Yamada and S. Omura : In vitro and in vivo antitrypanosomal activity of two microbial metabolites, KS-505a and Alazopeptin, *J. Antibiot.*, 61, 627-632 (2008)
- 15) Y. Murakami, Y. Ikeda, Y. Yonemitsu, M. Onimaru, K. Nakagawa, R. Kohno, M. Miyazaki, T. Hisatomi, M. Nakamura, T. Yabe, M. Hasegawa, T. Ishibashi, K. Sueishi : Inhibition of nuclear translocation of apoptosis-inducing factor is an essential mechanism of the neuroprotective activity of pigment epithelium-derived factor in a rat model of retinal degeneration, *Am. J. Pathol.*, 173(5), 1326-1338 (2008)
- 16) N. Ito, T. Yabe, Y. Gamo, T. Nagai, T. Oikawa, H. Yamada and T. Hanawa : Intracerebroventricular administration of orexin-A induces an antidepressive-like effect through hippocampal cell proliferation, *Neuroscience*, 157(4), 720-732 (2008)
- 17) Y. Toriizuka, E. Kinoshita, N. Kogure, M. Kitajima, A. Ishiyama, K. Otoguro, H. Yamada, S. Omura and H. Takayama : New lycorine-type alkaloid from *Lycoris Traubii* and evaluation of antitrypanosomal and antimalarial activities of lycorine derivatives, *Bioorg. Med. Chem.*, 16(24), 10182-10189 (2008)

総説

- 1) 山田陽城 : ネグレクテッド・ディジーズのための治療薬開発を目指して DNDi による新薬開発の挑戦 , *ファルマシア*, 44(1):54-58 (2008) (review)
- 2) 清原寛章, 松崎敏明, 松本 司, 永井隆之, 山田陽城 : 和漢生薬由来の腸管パイエル板免疫機能調節多糖の活性発現糖鎖と作用の解析, *YAKUGAKU ZASSHI*, 128(5), 709-716 (2008) (review)
- 3) 山田陽城 : 特集 2 Q&A で学ぶ ナースのため

の漢方入門, ナーシングトゥデイ, 23(13): 57-62 (2008)

プロシーディング なし

招待講演

- 1) H. Yamada : Recent Studies on Structure and Intestinal Immunity Modulating Activities of Pectins and Pectic Polysaccharides from Medicinal Herbs, Pectin and Pectinase 2008 Symposium, Wageningen (The Netherland), 2008. 4. 21~23
- 2) 永井隆之 : 漢方薬の薬効解析へのプロテオーム解析の応用, 第 58 回日本電気泳動学会シンポジウム, 東京, 2008. 6. 13 (特別講演)
- 3) H. Yamada : Current discovery research and most promising avenues, including anti-trypanosomal screens of Kitasato natural products, The 13th International Congress on Infectious Diseases, Kuala Lumpur (Malaysia), 2008. 6. 19~22
- 4) H. Yamada : Structural Diversity and Immunomodulating Activity of Plant Bioactive Polysaccharides for Health Care, International Carbohydrate Symposium 2008, Oslo (Norway), 2008. 7. 27~8. 1 (基調講演)
- 5) H. Yamada: Preventive Effects of Kampo Medicines on Infectious Diseases and Neural Diseases, 4th International Niigata Symposium on Diet and Health "Integrative functions of diet in anti-aging and cancer prevention", Niigata, 2008. 11. 29~30
- 6) 山田陽城 : 漢方薬の作用メカニズムの解析, 最近の進歩, 徳島文理大学での講演, 徳島, 2008.9.12 (特別講演)

シンポジウム

- 1) 山田陽城 : 薬学における漢方医薬学教育, 特別シンポジウム 新世代の医学・薬学における和漢医薬学教育, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 2) 永井隆之, 伊藤直樹, 矢部武士, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 花輪壽彦, 山田陽城 : 香蘇散のうつ様モデルマウスに対する抗うつ様作用の検討, シンポジウム 1 消化器領域の気剤の臨床と基礎, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 3) 清原寛章, 松本 司, 永井隆之, 山田陽城 : 和

漢薬の多糖研究で何か見えてくるか？, 第 17 回天然薬物の開発と応用シンポジウム, 福岡, 2008. 11. 13~14

- 4) 永井隆之: 漢方薬の薬効解析へのプロテオミクスの応用 香蘇散の抗うつ様作用に関わる生体内タンパク質の探索, Clinical Proteomics in Chiba 2008 (第 5 回千葉疾患プロテオミクス研究会), 千葉, 2008. 11. 16
- 5) Haruki Yamada: Search for anti infectious substances from Kampo (Japanese traditional herbal) medicine and Thai medicinal plants, Kitasato-Mahidol University Joint Symposium, Bangkok (Thailand), 2008. 11. 18 (シンポジウム講演・座長)

学会発表

- 1) 宇井英明, 末木啓人, 増間碌郎, 野中建一, 永井隆之, 和泉直行, 山本 剛, 山田陽城, 塩見和朗, 大村 智: 糸状菌の生産する新規抗インフルエンザウイルス物質の単離、構造および活性, 日本薬学会第 128 年会, 横浜, 2008. 3. 26~28
- 2) 清水ユリ子, 永井隆之, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 山田陽城: 漢方方剤「小青竜湯」の気道炎症モデルマウスに対する作用機序の検討, 日本薬学会第 128 年会 横浜 2008. 3. 26~28
- 3) 横澤恵美子, 矢部武士, 山田陽城: Cuprizone 誘発脱髄疾患モデルマウスに対する加味温胆湯の作用, 日本薬学会第 128 年会 横浜, 2008. 3. 26~28
- 4) 清原寛章, 松崎敏明, 山田陽城: 知母由来のパイエル板免疫機能調節グルコマンナンの活性発現糖鎖の解析, 日本薬学会第 128 年会, 横浜, 2008. 3. 26~28
- 5) 袴田恭子, 羽田紀康, 竹田忠紘, 山田陽城: 生薬黄耆由来多糖に関するモデル化合物の合成研究, 日本薬学会第 128 年会, 横浜, 2008. 3. 26~28
- 6) 清原寛章, 芦苅和男, 山田陽城: メシマコブ子実由来のパイエル板免疫機能調節多糖の解析, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 7) 永井隆之, 清水ユリ子, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 山田陽城: 小青竜湯の気道炎症モデルマウスに対する薬効発現機序の検討, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 8) 矢部武士, 横澤恵美子, 山田陽城: Cuprizone 誘発脱髄疾患モデルマウスに対する加味温胆湯の作用, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 9) 原田成彦, 矢部武士, 伊藤直樹, 山田陽城: 海馬神経系前駆細胞の制御を指標とした加味温胆湯の薬効解析, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 10) 蓮見菜月, 永井隆之, 伊藤直樹, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 花輪壽彦, 山田陽城: 香蘇散の抗うつ様作用に関わる生体内タンパク質のプロテオーム解析による検討, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 11) 片岡枝里花, 永井隆之, 山田陽城: 麻黄湯のインフルエンザウイルス感染に対する効果と薬効発現機序の検討, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 12) 松本 司, 細野加奈子, 川口基一郎, 山田陽城: 柴胡のペクチン bupleuran 2IIc の刺激による B 細胞からの IL-10 産生促進とその機序の解明, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 13) 伊藤直樹, 永井隆之, 清原寛章, 及川哲郎, 山田陽城, 花輪壽彦: 香蘇散の熱水抽出エキスおよび揮発性成分併用による抗うつ様相乗効果, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 14) 金 成俊, 伊藤直樹, 坂田幸治, 及川哲郎, 山田陽城, 花輪壽彦: 麻子仁の剤形の相違による小腸輸送能に及ぼす影響, 第 25 回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008. 8. 30~31
- 15) 矢部武士, 佐柳友規, 山田陽城: 一過性脳虚血に対する PEDF の脳保護作用, 第 51 回日本神経化学学会大会, 富山, 2008. 9. 11~13
- 16) 清原寛章, 河村有香, 永井隆之, Essam Abdel-Satter, Fathala Harrz, 山田陽城: Adenium obesum Roem & Schult. の抗インフルエンザウイルス活性物質, 日本生薬学会第 55 回年会, 長崎, 2008. 9. 19~20
- 17) 中村貴幸, 永井隆之, 木下 薫, 小山清隆, 古畑公夫, 山田陽城, 高橋邦夫: Biflavonoid-KDN 配糖体のインフルエンザウイルスシリアリダーゼ阻害活性, 日本生薬学会第 55 回年会, 長崎, 2008. 9. 19~20
- 18) 岩井真澄, 北島満里子, 石山亜紀, 乙黒一彦, 山田陽城, 大村 智, 高山廣光: インドールアルカロイド、タベルソニンとその関連化合物の抗トリパノソーマ活性, 日本生薬学会第 55 回年会, 長崎, 2008. 9. 19~20
- 19) 袴田恭子, 羽田紀康, 志村亮, 山田陽城, 竹

田忠紘：生薬黄耆由来多糖に関するモデル化合物の合成研究(2), 日本生薬学会第55回年会, 長崎, 2008. 9. 19~20

- 20) 和泉直行, 山本 剛, 宇井英明, 末木啓人, 増間碌郎, 野中建一, 廣瀬友靖, 砂塚敏明, 永井隆之, 山田陽城, 塩見和朗, 大村 智: *Trichoderma* 属糸状菌の生産する新規抗インフルエンザ物質 wickerols, 第50回天然有機化合物討論会, 福岡, 2008.9.30~10.2
- 21) 伊藤直樹, 蒲生裕司, 矢部武士, 及川哲郎, 山田陽城, 花輪壽彦: Orexin Aの抗うつ様作用メカニズム - Neuropeptide Yの関与 -, 第18回日本臨床精神神経薬理学会・第38回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2008.10.1~3
- 22) T. Yabe, T. Sanagi, H. Yamada: PEDF protects against ischemic injury in the rat middle cerebral artery occlusion model, *Neuroscience 2008*, Washington, DC (U.S.A.), 2008. 11. 15~19
- 23) 関谷路子, 清原寛章, 松本 司, 永井隆之, 矢部武士, 山田陽城: 感染制御効果を有する漢方方剤「補中益気湯」の粘膜免疫調節作用成分の解析, 北里大学微生物アカデミーAKPS学術集会, 東京, 2008. 12. 13

その他

- 1) 山田陽城: メタボリックシンドローム治療に用いられる漢方薬, 第69回東京薬科大学卒業教育講座, 東京, 2008. 10. 26 (教育講座)
- 2) 山田陽城: 海洋バイオテクノロジーの可能性と地域振興, 北里大学海洋バイオテクノロジー-釜石研究所オープン記念シンポジウム「海洋バイオテクノロジーの可能性と地域振興」, 釜石(岩手県), 2008. 11. 12 (パネルディスカッション)

-2. 臨床研究部

部長 及川哲郎

室長 日向須美子

上級研究員 伊藤直樹

遠藤真理

研究員 金 成俊 (兼務)

坂田幸治 (兼務)

漢方研究室室長 村主明彦 (兼務)

研究員 鈴木邦彦 (兼務)

早崎知幸 (兼務)

小田口 浩 (兼務)

五野由佳理 (兼務)

齋藤絵美 (兼務)

望月良子 (兼務)

山田和美 (兼務)

石井恵美 (兼務)

福田知顕 (兼務)

洪里和良 (兼務)

頼 建守 (兼務)

櫻井正智 (兼務)

高橋裕子 (兼務)

鍼灸研究室室長 伊藤 剛 (兼務)

研究員 伊東秀憲 (兼務)

石野尚吾 (兼務)

柳澤 紘 (兼務)

小山 基 (兼務)

石原 武 (兼務)

掛川一五 (兼務)

天野陽介 (兼務)

益山亜紀子 (兼務)

井田剛人 (兼務)

黒岩奈々子 (兼務)

矢吹杏子 (兼務)

大学院生 蒲生裕司

星野卓之

渡辺浩二

八代 忍

津田篤太郎

研究生 米田吉位

有島武志

関口敦子

秋元寛正

反保有紀

森田絵理奈

小池陽子

高谷真由美

大澤麻美

羽生あい

富永裕子

研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬、鍼刺激の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

当研究部の研究テーマは多岐にわたっているが、大きく分けると下記のようにまとめられる。

1. 消化管に及ぼす漢方薬の影響に関する研究
 - (1) 機能性消化管疾患に対する漢方処方の薬効評価

漢方薬は胃腸によいといわれるが、漢方処方が消化管機能にどのような影響を及ぼしているかという点については、これまで十分なデータが示されてこなかった。当研究部では Functional dyspepsia や過敏性腸症候群といった機能性消化管疾患に焦点を当て、胃排出機能や腸管ガス量の測定などにより、漢方処方の薬効評価を試みている。

(2) 呼気試験を用いた消化機能研究

13C化合物による呼気試験を用いて、漢方処方の消化機能に及ぼす影響を研究している。

(3) 炎症性腸疾患に対する作用の検討

年々増加しつつある、潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患に対する漢方薬の効果や作用機序を、動物モデルを用いて検討している。

2. 精神神経疾患を中心とした気剤の薬効評価、気の科学的解明

(1) 漢方薬および生薬の香りの中枢神経系に対する作用の解析

漢方薬および生薬の香りのうつ症状に対する効果を動物モデルを用いて検討し、その詳細な作用メカニズムを様々な実験手法を用いて多角的に研究している。

(2) 不安に対する気剤の効果の検討

東洋医学のみならず、精神医学、心理学、神経科学の知見を駆使して、不安に対する気剤の作用機序について検討している。

(3) 気剤の効果の客観的評価

気血水理論の中で、「気」の解明は最も遅れている。我々は、「気」と密接に関連していると考えられる自律神経機能が、「気」の異常とどのように関連しているか、半夏厚朴湯をはじめとする気剤投与でどのような影響を受けるかを、瞳孔反応や心拍変動などを指標にして評価、解析している。

3. 悪性腫瘍に及ぼす漢方薬の効果と作用メカニズムの研究

(1) がん転移に対する漢方薬の作用機構の解明

漢方薬によるがん再発防止療法の確立を目指して、がん転移を抑制するような漢方薬をスクリーニングし、その作用機構を解析している。

(2) がん化学療法の副作用軽減に関する臨床研究

がん化学療法に伴う造血障害や末梢神経障害などの副作用軽減に、漢方薬の併用が有効かどうか臨床的に検証を行っている。

4. 婦人科系疾患に用いられる漢方薬の作用機序解明

更年期障害に用いられる漢方薬がエストロゲン様活性を有することを明らかにした。このような漢方薬はエストロゲン受容体に結合するのか、また、更年期障害モデルマウスに対してどのような

効果を示すのかを検討している。

5. 冷え症の温熱生理学的解析

未だ科学的解明がされていない冷え症について、その病態と漢方方剤の有用性について臨床研究を行っている。

6. 高血圧に対する漢方薬の効果

漢方薬に降圧効果があるか、効果に証との関連があるかについて検討している。

7. 漢方薬と西洋薬の相互作用

抗癌剤あるいはステロイド剤によって誘導される薬剤耐性を克服するような漢方薬の探索とその作用機構の解明

8. 漢方薬による副作用の予測診断法の開発

甘草が含有するグリチルリチン酸によって生じる偽アルドステロン症の発症前診断(遺伝子診断)法の開発。

原著論文

- 1) 及川哲郎、伊藤 剛、星野卓之、早崎知幸、高橋裕子、八代 忍、五野由佳理、小田口 浩、花輪壽彦：半夏厚朴湯の使用目標とその臨床効果との関連について～機能性ディスぺプシア患者における検討～、日本東洋医学雑誌, 59(4) : 601-607(2008)
- 2) T. Oikawa, G. Ito, T. Hoshino, H. Koyama and T. Hanawa : Hangekobokuto (Banxia-houpo-tang), a Kampo medicine that treats functional dyspepsia., Evid. Based Complement. Alternat. Med, IN PRESS
- 3) M.Endo, T.Hayasaki, T.Oikawa, T.Akahoshi and T.Hanawa : A case in which Kampo medicine affected warfarin control, J.Trad.Med., 25(4) : 122-124(2008)
- 4) Ito N., Nagai T., Oikawa T., Yamada H., Hanawa T. : Antidepressant-like effect of l-perillaldehyde in stress-induced depression-like model mice through regulation of the olfactory nervous system., Evid. Based Complement. Alternat. Med, IN PRESS
- 5) Ito N., Yabe T., Gamo Y., Nagai T., Oikawa T., Yamada H., Hanawa T. : Rosmarinic acid from Perillae Herba produces an antidepressant-like effect in mice through cell proliferation in the hippocampus., Biol. Pharm. Bull., 31(7) : 1376-1380(2008)
- 6) Ito N., Yabe T., Gamo Y., Nagai T., Oikawa T., Yamada H., Hanawa T. : l.c.v.

administration of orexin-A induces an antidepressive-like effect through hippocampal cell proliferation., Neuroscience, 157(4) : 720-732(2008)

- 7) Gamo, Y., Ito, N., Oikawa, T., and Hanawa, T.: An anxiolytic-like effect of kososan is different from the effect of hangekobokuto on two anxiety models in mice, J. Trad. Med. , IN PRESS
- 8) T.Hoshino, T.Oikawa, M.Endo and T.Hanawa : The utility of noninvasive ¹³C-acetate breath test using a new solid test meal to measure gastric emptying in mice, Journal of Smooth Muscle Research, 44(5) : 159-165(2008)
- 9) Watanabe, K., Hyuga, S., Hyuga, M., Sekiguchi, A., Endo, M., Tsuda, T., Oikawa, T., Yamaguchi, T., and Hanawa, T.: Unkeito, a traditional Kampo formula, exhibits a selective estrogen receptor modulator-like activity. - Prevention of osteoporosis in ovariectomized mice , J.Trad.Med., IN PRESS

総説

- 1) 及川哲郎：がんの緩和医療における漢方医学の役割, JJIM(日本統合医療学会雑誌), IN PRESS

学会・研究会発表

- 1) 及川哲郎、伊藤 剛、花輪壽彦：当研究所における潰瘍性大腸炎治療症例の検討, 第59回日本東洋医学会学術総会, 宮城, 2008/6/6-2008/6/8
- 2) 及川哲郎、遠藤真理、羽鳥努、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルマウスに対する漢方薬の効果, 第94回日本消化器病学会総会, 福岡, 2008/5/8-2008/5/10
- 3) Hyuga, S., Hyuga, M., Watanaeb, K., Tsuda, T., Oikawa, T., and Hanawa, T.: Maoto, Kampo medicine, induces the alteration of metastatic-related gene expression in metastatic cells, 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association , 愛知, 2008/10/28-2008/10/30
- 4) 日向昌司、日向須美子、原島瑞、山口照英、新見伸吾：アネキシンA3のノックダウンはヒト肝癌細胞Huh7の増殖を抑制する, 第

128回日本薬学会年会, 横浜, 2008/3/26-2008/3/28

- 5) 日向須美子、日向昌司、伊東秀憲、渡辺浩二、津田篤太郎、及川哲郎、花輪壽彦：麻黄湯によるがん細胞の運動能およびがん転移の抑制, 第128回日本薬学会年会, 横浜, 2008/3/26-2008/3/28
- 6) 日向須美子、日向昌司、伊東秀憲、渡辺浩二、津田篤太郎、及川哲郎、花輪壽彦：麻黄湯のがん転移関連遺伝子発現に対する効果の解析 , 第59回日本東洋医学会学術総会, 宮城, 2008/6/6-2008/6/8
- 7) 遠藤真理、及川哲郎、羽鳥努、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルに対する漢方薬の有効性の検討, 第25回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008/8/30-2008/8/31
- 8) 伊藤直樹、蒲生裕司、矢部武士、及川哲郎、山田陽城、花輪壽彦：Orexin Aの抗うつ様作用メカニズムの解析—Neuropeptide Yの関与—, 第18回日本臨床精神神経薬理学会・第38回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2008/10/1-2008/10/1
- 9) 伊藤直樹、永井隆之、清原寛章、及川哲郎、山田陽城、花輪壽彦：香蘇散の熱水抽出エキスおよび揮発性成分併用によつ抗うつ様相乗効果, 第25回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008/8/30-2008/8/31
- 10) 伊東秀憲、日向須美子、日向昌司、渡辺浩二、津田篤太郎、及川哲郎、花輪壽彦：麻黄湯内服後健常人血清によるヒト乳がん細胞の運動能抑制効果の解析, 第128回日本薬学会年会, 横浜, 2008/3/26-2008/3/28
- 11) 伊東秀憲、日向須美子、日向昌司、津田篤太郎、及川哲郎、花輪壽彦：麻黄湯を内服した健常人血清によるヒト乳がん細胞の運動能抑制効果の解析, 第59回日本東洋医学会学術総会, 宮城, 2008/6/6-2008/6/8
- 12) 伊東秀憲、日向須美子、日向昌司、渡辺浩二、津田篤太郎、及川哲郎、伊藤 剛、花輪壽彦：漢方薬を服用した健常人血清によるヒト乳がん細胞MDA-MB-231の運動能抑制効果(続報), 第25回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008/8/30-2008/8/31
- 13) 蒲生裕司、伊藤直樹、及川哲郎、花輪壽彦：Geller-Seifter型コンフリクト試験におけるマウスの行動に対する半夏厚朴湯の影響, 第25回和漢医薬学会学術大会, 大阪, 2008/8/30-2008/8/31
- 14) 蒲生裕司、津田篤太郎、及川哲郎、花輪壽

彦：抗うつ薬が無効であった精神病後抑うつに半夏厚朴湯が著効した一例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8

- 15) 星野卓之：「固体食を用いたマウス胃排出呼吸試験の確立」，第50回日本消化器病学会大会，東京，2008/10/1-2008/10/4
- 16) 星野卓之、及川哲郎、花輪壽彦：外耳道真菌症を伴った慢性中耳炎に排膿散及湯エキス及び辛夷清肺湯エキスが有効であった一例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 17) 渡辺浩二、日向須美子、日向昌司、関口敦子、遠藤真理、津田篤太郎、及川哲郎、山口照英、花輪壽彦：温経湯の選択的エストロゲン受容体モジュレーター様作用について，第25回和漢医薬学会学術大会，大阪，2008/8/30-2008/8/31
- 18) 渡辺浩二、日向須美子、日向昌司、山口照英、及川哲郎、花輪壽彦：安全性評価を前提とした産婦人科頻用漢方処方女性の生殖器及び血中エストロゲンに対する影響，第48回日本先天異常学会学術総会，東京，2008/6/28-2008/6/30
- 19) 津田篤太郎、日向須美子、日向昌司、渡辺浩二、及川哲郎、花輪壽彦：がん細胞の薬剤耐性に対する漢方薬の作用の解析～MDR-1に対する検討から～，第25回和漢医薬学会学術大会，大阪，2008/8/30-2008/8/31
- 20) 津田篤太郎、石井恵美、八代 忍、星野卓之、蒲生裕司、渡辺浩二、伊東秀憲、及川哲郎：当施設での器質的疾患の明らかではない全身疼痛に対する漢方治療経験，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 21) 有島武志、佐々木一郎、吉田麻美、水嶋丈雄、増井義一、大澤仲昭、村主明彦、石野尚吾、花輪壽彦、今川彰久、花房俊昭：バセドウ病患者の有痛性筋痙攣に対し芍薬甘草湯が奏効した3例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 22) 関口敦子、及川哲郎、村主明彦、石野尚吾、花輪壽彦：月経困難症の腹証の検討，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8

学会特別講演・シンポジウム等

- 1) 及川哲郎、伊藤 剛、星野卓之、小田口 浩、若杉安希乃、花輪壽彦：東洋医学と自律神

経～消化管機能の観点から～，第61回日本自律神経学会総会，神奈川，2008/11/6-2008/11/7

- 2) 伊東秀憲：漢方薬によるがん転移抑制は可能か？～がん再発予防をめざした麻黄湯のヒトがん細胞運動能に対する効果のin vitro解析～，第25回和漢医薬学会学術大会，大阪，2008/8/30-2008/8/31
- 3) 星野卓之：固形食を用いたマウス胃排出呼吸試験，第50回日本平滑筋学会総会，青森，2008/7/3-2008/7/4
- 4) 八代 忍、津田篤太郎、及川哲郎、花輪壽彦：浸出液排出が持続する骨・関節感染症に対し、黄耆・人参を増量した補剤が有効であった2症例，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 5) 及川哲郎：消化管機能に及ぼす半夏厚朴湯の効果，第25回和漢医薬学会学術大会，大阪，2008/8/30-2008/8/31

講演・講義等

- 1) 及川哲郎：漢方医学の基礎 - 四診（腹診） - ，第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/7/28-2008/8/1
- 2) 日向須美子：漢方医学の現在・過去・未来～伝統の継承から発展へ～「漢方研究最前線」，平成20年度明治薬科大学生涯教育講演会，東京，2008/7/27
- 3) 日向須美子：漢方医学の理論、臨床応用を目指した漢方薬の基礎研究，第30回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2008/7/30
- 4) 及川哲郎：「呼吸器疾患と漢方」，第3回相模原市医師会東洋医学研究会，神奈川，2008/10/21
- 5) 及川哲郎：漢方医学概論，第1回相模原東洋医学研究会，神奈川，2008/4/15
- 6) 及川哲郎：消化器疾患の漢方治療，第2回相模原東洋医学研究会，神奈川，2008/6/17
- 7) 及川哲郎：「消化器疾患の漢方治療」，第35回栃木県北消化器病懇話会，栃木，2008/11/18
- 8) 日向須美子：臨床研究としての東洋医学1，北里大学大学院医療系研究科講義，東京，2008/1/11
- 9) 遠藤真理、及川哲郎、羽鳥努、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルマウスに対する漢方薬の有効性の検討，第180回北里研究会，東京，

2008/9/18-2008/9/19

- 10) 伊東秀憲、日向須美子、日向昌司、及川哲郎、花輪壽彦：ヒトがん細胞の運動能に対する麻黄湯内服後の健常人血清の効果の解析，第178回北里研究会，東京，2008/2/29
- 11) 渡辺浩二、日向須美子、日向昌司、山口照英、及川哲郎、花輪壽彦：閉経モデルマウスを用いた更年期頻用漢方処方的女性生殖器に対する安全性評価，第178回北里研究会，東京，2008/2/29

その他

- 1) 津田篤太郎：「あなた」と「わたし」，そして「生」と「死」，看護教育，Vol.49 No.5，470，医学書院

研究助成金

- 1) 研究代表者 花輪 壽彦 分担研究者 日向須美子 平成 20 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2008 年 6 月 13 日) 平成 20 年度 182 万円
- 2) 伊藤直樹：平成 20 年度 科学研究費補助金(若手研究 (B)) (2008 年 6 月 13 日) 182 万円
- 3) 遠藤真理：平成 20 年度 科学研究費補助金(若手研究 (B)) (2008 年 6 月 13 日) 平成 20 年度 312 万円

受賞

- 1) 伊東秀憲、第 25 回和漢医薬学会学術大会学会奨励賞受賞、8/30
- 2) 伊藤直樹、第 25 回和漢医薬学会学術大会優秀発表賞受賞、8/30

-3. 医史学研究部

部長	小曾戸 洋
研究員	友部和弘 天野陽介 (上級研究員) 大津幸恵
客員研究員	猪飼祥夫 浦山きか 大浦宏勝 郭 秀梅 小林健二 鈴木達彦 舘野正美 長野 仁 西巻明彦 野澤隆幸 町泉寿郎

宮川浩也
矢数芳英
矢嶋道文
アンドリュー・ゴープル
マティアス・ウイグル

研究概要

当研究部の前身は 1983 年に設置された医史学研究室で、1992 年 12 月より医史学研究部に昇格し、この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから、豊富な経験と知識の多くは古文献の形で伝えられている。従って、東洋医学を研究し、現代に十分に応用していくためには、まず歴史背景そして文献資料を把握し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。

学会・研究会発表

- 1) 小曾戸 洋：先哲医家顕彰と矢数道明先生、温知会500回記念公開講演会，東京，2008/9/28
- 2) 小曾戸 洋：古方派の台頭と長門が生んだ永富独嘯庵，第19回日本東洋医学会中四国支部山口県部会学術総会，山口，2008/7/19
- 3) 小曾戸 洋：日本医療の歴史，第21回大阪医大漢方研究会，大阪，2008/9/4-2008/9/4
- 4) 小曾戸 洋：先哲医家の名治験，第37回日本東洋医学会中四国支部総会島根大会，島根，2008/10/19
- 5) 小曾戸 洋、天野陽介、石野尚吾、花輪壽彦：日本の扁鵲画像考，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8

学会特別講演・シンポジウム等

- 1) 小曾戸 洋：神農本草経の医学思想，日本東洋医学会第 17 回埼玉県部会教育講演，埼玉，2008/2/24
- 2) 小曾戸 洋：漢方古典の基礎理論，日本東洋医学会平成 20 年度医学部・医科大学大学生のための卒前教育、東京、2008/8/20
- 3) 小曾戸 洋：近年日本における張仲景医書出版の様相，日中張仲景学説交流会シンポジウム，東京，2008/11/23
- 4) 小曾戸 洋、天野陽介、石野尚吾、花輪壽彦：

日本の扁鵲画像考，第109回日本医史学会
学術大会，千葉，2008/6/6-2008/6/8

- 5) 小曾戸 洋、天野陽介、町泉寿郎、花輪壽彦：
医家肖像に関する考察，第109回日本医史
学会学術大会，千葉，
2008/6/21-2008/6/22
- 6) 天野陽介、小林健二、石野尚吾、花輪壽彦：
江戸期の経穴学工具書について，第109回
日本医史学会学術大会，千葉，
2008/6/21-2008/6/22
- 7) 天野陽介、町泉寿郎、小曾戸 洋：新刊の医
家肖像集(杏雨書屋)，日本医史学会5月例
会，東京，2008/5/24

講演・講義等

- 1) 小曾戸 洋：類聚方広義の成り立ちと意義，
(財)漢方医学研究所 漢方医学講座，東京，
2008/4/3
- 2) 小曾戸 洋：医史学解説，(財)日本漢方医
学研究所平成19年度臨床講座，東京，
2008/3/9
- 3) 小曾戸 洋：中国古代医学の英知，第196回
防長俱樂部講話会，東京，2008/3/21
- 4) 小曾戸 洋：医史学への誘い，平成20年度
明治薬科大学生涯教育講演会，東京，
2008/10/12
- 5) 小曾戸 洋：新出の漢方史料紹介，方術信
和会平成20年新年講演会，東京，2008/1/6
- 6) 小曾戸 洋：方伎雑誌の成り立ちと意義，
幕末の名医 尾台榕堂と漢方，新潟，
2008/5/16
- 7) 小曾戸 洋：古典の理論 - 黄帝内経・神
農本草経 - ，第30回医学生・研修医のため
の東洋医学セミナー，東京，2008/7/28
- 8) 小曾戸 洋：古典の理論 - 傷寒論・金匱
要略 - ，第30回医学生・研修医のため
の東洋医学セミナー，東京，2008/7/28
- 9) 小曾戸 洋：日本漢方の歴史，漢方医学フ
ォーラム，茨城，2008/7/4
- 10) 小曾戸 洋：東洋医学史に学ぶ 漢方の思
想 ，第14回市民大学北里大学コース，東
京，2008/10/22
- 11) 小曾戸 洋：日大医学部図書館所蔵の漢方
史料，平成20年度日本東洋医学会関東甲信
越支部第1回東京都部会，東京，2008/9/28
- 12) 天野陽介：『難経』ダイジェスト，浜松市
鍼灸マッサージ師会学術講習会，浜松，
2008/1/19
- 13) 天野陽介、小曾戸 洋：医師の装束，日本
医史学会10月例会，東京，2008/10/25

その他

- 1) 小曾戸 洋、天野陽介、町泉寿郎：目で見
る漢方史料館(237)「山脇玄心の書と肖像」，
漢方の臨床，55(5)，2-4，東亜医学協会
- 2) 小曾戸 洋：中国古代医学の英知，『防長俱
楽部誌』，55巻661号，2-6，防長俱樂部
- 3) 天野陽介：森沢園生誕二百年祭の報告，漢
方の臨床，55(4)，126-127，東亜医学協
会

受賞

- 1) 小曾戸 洋：第59回日本東洋医学会 大塚敬
節記念東洋医学賞受賞、2008/6/7

臨床試験部門

臨床試験部門長 花 輪 壽 彦

臨床試験管理室

室 長 小 田 口 浩

室 員 若 杉 安 希 乃

研究概要

臨床試験管理室の目的は漢方医学における
Evidence の構築であり、臨床試験の実施が中心と
なる。本年度は、漢方医学診断に客観性をもたせ
るための疫学的研究を開始した。その他、北里研
究所病院との共同研究、随証治療効果の検討など
の臨床研究が進行中であり、今後も拡大していく
予定である。

原著論文

- 1) A.Wakasugi, H.Odaguchi, T.Oikawa and
T.Hanawa: Effects of goshuyuto on
lateralization of pupillary dynamics in
headache., Autonomic Neuroscience:
Basic and Clinical, 139: 9-14(2008)

総説

- 1) 小田口 浩: 古典にみる外科処方，漢方と最
新治療，17-2: 106-112(2008)
- 2) 小田口 浩、若杉安希乃、花輪壽彦：漢方医
学とEBM 慢性頭痛に対する漢方治療を題材
にして，科学，78-10: 1150-1153(2008)
- 3) 小田口 浩、若杉安希乃、花輪壽彦：漢方頭
痛治療とEBM，Current Therapy, 26-10:
61-65(2008)
- 4) Wakasugi and T.Hanawa: Establishing an
objective method for assessment the
effects of Kampo medicine -Evaluation of
autonomic nerve function with pupillary

症例報告

- 1) 小田口 浩、若杉安希乃、伊東秀憲、正田久和、蒲生裕司、渡辺浩二、星野卓之、及川哲郎、花輪壽彦：柴胡加竜骨牡蠣湯服用により自律神経機能の変化と降圧効果が認められた高血圧症例，日本東洋医学雑誌，59(1)：53-61(2008)
- 2) 小田口 浩、伊東秀憲、五野由佳理、花輪壽彦：目と耳のアレルギー症状に桂枝去芍薬湯が有効であった一症例，漢方の臨床，55(11)：1712-1714(2008)

学会・研究会発表

- 1) 小田口 浩、若杉安希乃、及川哲郎、花輪壽彦：代表的気剤である香蘇散と半夏厚朴湯の臨床上の使い分け，第25回和漢医薬学会学術大会，大阪，2008/8/30-2008/8/31
- 2) 小田口 浩：漢方薬の降圧効果と漢方医学的視点の関係 - 高血圧患者に対する6種漢方薬順次投与研究 - ，第31回日本高血圧学会総会，北海道，2008/10/9-2008/10/11
- 3) 小田口 浩、若杉安希乃、及川哲郎、伊藤 剛、花輪壽彦：随証治療を行った高血圧症例の検討，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 4) 若杉安希乃、小田口 浩、東 慧子、鎌田里子、氏原 淳、花輪壽彦：漢方薬・herbal medicineの臨床試験におけるプラセボ剤型の調査，第29回日本臨床薬理学会年会，東京，2008/12/4-2008/12/6
- 5) 若杉安希乃、及川哲郎、小田口 浩、花輪壽彦：漢方治療の消化器症状に対する効果について - GSRsによる評価 - ，第59回日本東洋医学会学術総会，宮城，2008/6/6-2008/6/8
- 6) 若杉安希乃、小田口 浩、東 慧子、鎌田里子、氏原 淳、花輪壽彦：漢方臨床試験におけるプラセボについて，第8回CRCと臨床試験のあり方を考える会議，石川，2008/10/11

学会特別講演・シンポジウム等

- 1) 小田口 浩：研究結果とリンクした気剤の使い方，JPS漢方特別講座，東京，2008/2/10
- 2) 小田口 浩：インフルエンザ治療における漢方の役割，第24回ICP研究会，東京，2008/3/7
- 3) 小田口 浩：漢方におけるEBMの実践，平成